

胃部X線検査についてのご説明

【検査の目的】

胃の状態を造影という手法で観察し、潰瘍・ポリープ・がんなどの病変の有無を見るための検査です。

【検査の方法】



1.発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲みます。胃が張ってきますが、ゲップは我慢してください。



2.バリウム（白い液体）を飲みます。



3.身体を回転させたり、胃部を圧迫しながら、X線を照射し胃を撮影します。

【バリウムによる偶発症】

誤嚥が最も多く0.01%との報告があります。特にご高齢の方（65歳以上の方）では注意が必要です。

極めて少数ですが、発疹などの過敏症、腸管穿孔、腹膜炎が報告されています。

検査後の水分摂取が少ないと、バリウムイレウス（腸閉塞）のリスクが高まる恐れがあります。

【偶発症についての対応】

上記偶発症については可能な限りの対応させていただきますが、当センターは健診施設であり、病院やクリニックではないため、症状によっては他の医療機関へ受診をお願いすることがございます。偶発症に関わる医療費は、保険診療にて実施し、一部負担金やその他の費用はお客様のご負担となる場合がございますので、ご了承ください。

【バリウム検査の禁忌について】

*バリウムでアレルギー症状が出た、気分が悪くなった

⇒バリウムに対して過敏症状がある方は、ショック、アナフィラキシー症状が現れることがあります。

*腸閉塞・腸捻転を起こしたことがある

*過去1年以内にお腹の手術を受けた

*過去2か月以内に胃・十二指腸潰瘍の治療を受けた、または食道・胃・大腸の内視鏡手術を受けた

*大腸憩室炎、潰瘍性大腸炎、クローン病の診断を受けた

⇒バリウムや下剤により消化器管への負担が大きくなる可能性があり、消化管穿孔などの重篤な合併症を起こす恐れがあります。

*過去1年以内に、心筋梗塞や脳梗塞をされた、または手術を受けた

*腹部大動脈瘤、大動脈解離の診断を受けた

⇒検査により身体的に負荷がかかり、疾患が悪化する恐れがあります。

*心臓疾患や腎疾患、人工透析などで水分制限を受けている

⇒水分が十分摂れないことにより、バリウムの停滞、排泄遅延の恐れがあります。

*検査当日まで3日間以上排便がない

⇒検査後にバリウムが排泄されず、腸閉塞、バリウム虫垂炎等、重篤な症状が現れることがあります。

*整形外科の病気や麻痺がある、などで身体の保持・回転が困難

⇒撮影台から転落する可能性や、撮影自体が困難な場合があります。

*日頃、飲み込む際によくむせたり、咳き込んだりする

⇒バリウムをうまく飲み込めず、誤って気管や肺に入った場合、肺炎などの重篤な症状を引き起こす恐れがあります。

*妊娠中の方

⇒X線が胎児に影響を及ぼす恐れがあります。

*80歳以上の方

⇒加齢に伴う嚥下機能の低下からバリウムの誤嚥を起こす恐れがあります。

また、身体機能の低下から撮影台での身体の保持・回転が難しい場合が予測され、転落等の恐れがあります。

*検査当日の血圧が180/110mmHg以上の方

⇒検査により身体的に負荷がかかり、さらに血圧上昇を招く恐れがあるため、検査できません。

*体重が130kg以上の方

⇒検査台の体重制限が130kgまでのため、それ以上の負荷をかけると検査台故障の恐れがあるため、検査できません。